

【教育目標 夢中になる とともに創る】



きらきら

新潟市立沼垂幼稚園
園だより
令和8年2月25日発行

沼垂幼稚園 111 年目 大切にしている3つの「一」★★★「一人一人」「一緒に」「かけがえのない一年」★★★

何気ない会話から

園長 関根 秀也

2月上旬は、強い寒波の影響で新潟の冬らしく、子どもにとって雪でたくさん遊べる楽しい時期になりました。大人にとっては除雪や通勤通学に神経を使う大変な日々が続きましたが…。また、ミラノ・コルティナ冬季オリンピックでの新潟県出身選手の大活躍により、子どもの遊びにオリンピック競技の様子が加わり、新たな工夫をしたり、面白さや難しさが増したりして、子どもたちは遊びを通して学びを楽しむ日々を過ごしています。

そのような中、園庭の河津桜のつぼみも膨らみ始め、少しずつ感じる春の気配とともに、園では雛人形製作に取り組んでいます。この雛人形製作は、遊びを通してこれまで身に付けた集中力や素材を扱う力などを発揮する活動で、子どもたちにとっては手ごたえのあるものになっています。各保育室では真剣に製作に取り組む様子が見られ、子どもたちの成長を実感します。この他にも成長の様子は、会話の中にも感じられます。

この時期、年長組は園長室で給食を食べる「会食会」をしています。その時の子どもたちはとても話が弾みます。会話が途切れることなく続きます。

Aさん 「園長先生は、何人家族？」
園長 「5人家族だよ」
Aさん 「ぼくは4人」
Bさん 「私は5人」
Cさん 「ぼくは5人、家族でご飯食べに行ったことがあるよ」
園長 「どこへ食事に行ったの？」
Cさん 「□□亭、ラーメンが好き」
園長 「園長先生もラーメン大好きだよ」
Bさん 「私は、とんこつラーメンが好き」
Aさん 「ぼくは、お寿司を食べに行ったことがあるよ」
Bさん 「私は、ホテルでご飯を食べたことがあるよ」
全員 「へえー、そうなんだ。」



何気ない会話の内容ですが、互いの話を聞き、それに応えるように話しています。また、友達の状況を踏まえながら会話が進んでいます。この会話は、ささやかですが社会性を身に付けたからこそできる姿だと思います。

年少組の時は、自分のことを聞いてもらおうとすることで終始していました。それが互い

の状況を聞き合い、大人が無理に入らなくても、話をつなぐことができている。これは、教師が教えて身に付けたことだけではありません。子どもが、友達や家族がしっかりと自分の話を受け止めてくれる経験を積んできたからです。安心感を抱くこのような経験が、会話ができる環境を生み出していると考えます。

SNS等を介した関わりやAIとの対話には積極的でも、対面で人と関わるのが苦手な大人や子どもが増えていると聞くことがあります。必要によっては、会話等が上手くできるように「人と関わるスキル」を練習することもあります。練習することはいいことですが、それは型や形式に沿った関わりで、場面が変われば練習通りにはいかないこともあります。関わることの根底にあるのは、自己肯定感を育てることだと思います。「自分は人から受け入れてもらえる」という意識があれば、「話がしたい」という気持ちが自然と生まれます。そして、その次に育てることは、「人の話に耳を傾ける」ことです。大好きな友達と遊びたいと願うとき、子どもは分からないことがあれば、何度も納得するまで聞き返します。ご家庭でもそのような場面があると思います。その時に、ゆっくり話してあげるようにしてみましょう。そして、「よくお話を聞いていたね」と褒めることで、子どもに聞くことの心地よさを感じさせてください。幼稚園の教職員は、努力して子どもの話を聞こうとします。人間関係を築いたり、保ったりするには、相手の立場を考え、相手を思いやる気持ちをもつことが大切です。相手を受容できる子どもたちを育てるために、しっかり話の聞ける大人でありたいものです。

今月の「きらきらな笑顔」



生活発表会
大成功!

またやりた
いね!



みんなでなりきって
遊ぶのは楽しいな!



オリンピック遊びの表彰式の撮
影です。「コアラのマ〜チ♪」